

- ◇開催日時 平成 29 年 7 月 26 日 (水) 14 時～16 時
- ◇会場 橋本市教育文化会館
- ◇参加者 森 (橋本市教委)、今田・中谷 (あやの台小)、市平 (紀見小)
上田・堂本・阪本・川西・五十川・寺本 (三石小)
谷垣・畑下・中澤 (奈良教育大学) 13 名

◇内容

1. E S D を指導する教員に求められる資質・能力

- ①教師としての基盤的力量
 - ・授業力
- ②SD (持続可能な開発) に対する関心
- ③教材開発力
 - ・教材に気づく力
 - ・地域教材を開発する力
 - ・単元をデザインする力
- ④自らの実践を振り返り洗練化する力 (反省性)



2. 橋本市 E S D 連続セミナー (全 5 回)

(1) 開催日時と主な内容

7 月 26 日 (水) 14 時～ オリエンテーション・E S D の背景

8 月 7 日 (月) 15 時～ E S D の学習理論①

8 月 29 日 (火) 9 時～ E S D の学習理論②

11 月 10 日 (金) 16 時～ 優良実践事例の分析

※各自、E S D 学習指導案を作成

12 月 4 日 (月) 16 時～

各自が作成した E S D 学習指導案の検討

※E S D 学習指導案の洗練化



※1 月中旬をめどに修正した E S D 学習指導案を提出

2 月 提出された E S D 学習指導案及びミニレポートの審査

3 月 E S D ティーチャー認定証の授与

3. E S D の歴史

1972 年 国連人間環境会議 (ストックホルム会議) 「環境教育」概念の提起

1987 年 国連環境と開発に関する世界委員会 (ブルントラント委員会)

持続可能な開発の定義

「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発」

◎世代内の公正と世代間の公正

1992年 国連環境開発会議（地球サミット）

持続可能な開発についての行動計画（アジェンダ21）

伝説の演説

1997年 環境と社会に関する国際会議（テサロニキ会議）

環境教育の概念の変化「持続可能性に向けた教育（E f S）」概念

2002年 持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルクサミット）

※2005年～2014年を国連ESDの10年（DESD）として推進していくことを決定。

○2008年 学習指導要領改訂 学習指導要領にESDの考え方が反映

2014年 ESDに関するユネスコ世界会議

DESDの後継プログラムとしてグローバル・アクション・プログラム（GAP）が採択

2015年 国連持続可能な開発目標（SDGs）

2017年 次期学習指導要領 前文・改訂の趣旨等への明記

「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」

4. 次期学習指導要領と ESD

（1）次期学習指導要領の目標 「生きる力」の育成

生きる力を指させる3つの資質・能力

①各教科で育てる学力

②教科横断的な基盤的な学力

③現代的諸課題に対応する力

（2）構造化された知識から「見方・考え方」の育成へ

構造化された知識

因果関係で結び付けられた知識 ⇔ 断片的な知識

習得・活用・探求による学びのサイクル

（3）「見方・考え方」の洗練化・社会化

教科横断的な学習の必要性

「社会に開かれた教育課程」

教育課程の不断の見直し（カリキュラムマネジメント）

← チーム学校



5. ESDが必要とされる背景

（1）環境問題

①気候変動（温暖化）

②生物多様性の劣化

③資源の枯渇

（2）平和の問題

- (3) 日本のESD実施計画に明記された「2つの織り込んでいくこと」
「社会経済システムに環境配慮を織り込んでいくこと」
「人権や文化等に対する配慮を織り込んでいくこと」

